

| | |
|--|--|
| 高等部教育目標 | |
| イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う | |
| 探究型カリキュラム教育/学習目標 | |
| SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける | |
| 探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning | |
| 1. 自分事として 2. 社会/実践を通して 3. 知識を大事に 4. コミュニケーションを通して 5. 生徒・教員が共に <オーナーシップ/一人称> <PBL 型/アクション> <自ら得る知識/高める関心> <自分/他者のやりとり> <共に探究する関係性> | |
| AI の学習目標 | |
| SDGs の達成に向け、社会で利用されている AI に関する見識を広げ、AI 活用スキルを身につける | |
| 1. 社会で AI が活用されている事例を知り、AI の役割や機能を語ることができる | |
| 2. AI の様々な側面を理解したうえで、AI の活用法について議論できる | |
| 3. AI を活用して SDGs の各課題の解決案を提案することができる | |

| | | | |
|------|--|--|--------------|
| 授業日 | 4/12(火) | 1 学期授業回数 | 1 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 興味関心がある社会課題・問題について調べ、グループに分かれて解決したい課題の問題点・起因を調べる。社会問題への理解を深める。 | | |
| 時間 | 30分 | 今学期の予定を確認。社会課題・問題を列挙（個人ワーク） | |
| 授業内容 | 15分 | グループ分け・自分が解決したい社会課題を発表。グループで取り組む課題を決定。 | |
| | 45分 | 社会課題の問題点・起因を調べ、社会課題についての情報を集める。 | |
| 評価方法 | 評価物なし | | |
| 宿題指示 | | | |

| | | | |
|------|---|--|--------------|
| 授業日 | 4/19(火) | 1 学期授業回数 | 2 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 前回の授業で選んだ興味関心がある社会課題・問題について、各グループで、AI を活用しての解決策を視野に入れながら、さらに掘り下げて調べてまとめてみる。 | | |
| 時間 | <5 限目> | 前回の授業の復習—この授業の最終目標を確認 身近にある社会課題・問題を選び、AI を活用しながらその解決策を探っていくために、「BS1 スペシャル〜ビジョン・ハッカー世界をアップデートする若者達」を觀賞し、自分達が参考にできないかを考える。 ドキュメンタリーの内容を振り返る。 | |
| 授業内容 | 10分 | | |
| | 30分 | | |
| | 5分 | | |
| | <6 限目> | | |
| | 45分 | 各グループに分かれ、自分達の選択した社会課題・問題について話し合い、さらに理解を深め、現時点で収集した情報をまとめる。次回の授業では、大学教員の研究室を訪問し、大学教員の目の前で、各グループで現時点での報告としての 10 分のプレゼンを行うことになっているため、その準備を行う。 | |
| 評価方法 | 1) 学びの記録 | | |

| | |
|------|---|
| | 2) 各グループで選んだ社会課題についての問題点や AI での解決策について、現時点で考えられることをまとめてロイロノートで提出。 |
| 宿題指示 | 大学教員の前で、各グループで現時点での報告としての 10 分のプレゼンを行うための準備をする。 |

| | | | |
|------------|---|---|--------------|
| 授業日 | 4/26(火) | 1 学期授業回数 | 3 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 社会課題→解決する AI を考える過程のロジックをデータを基に構築する。 | | |
| 時間 授業内容 | 90 分 (五班の内二班は 30 分間 大学教員の指導を受ける) | 社会課題を解決する AI を考案する際に必要な知識を調べる。 調べを進めていく中で、疑問に思ったことなどインターネットの情報源では解決できないものをまとめる。 実際に社会課題に直面している方の意見を聞くためにフィールドワークも実施する必要がある。そのために必要なフィールドワーク先を調べる。 | |
| 評価方法 | Classi を用いた振り返り | | |
| 宿題指示 | 大学教員の前で、各グループで現時点での報告としての 10 分のプレゼンを行うための準備をする プレゼンを終えた班はそのプレゼンを終えて不足している点を改善する。 | | |

| | | | |
|------------|--|---|--------------|
| 授業日 | 5/10(火) | 1 学期授業回数 | 4 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 社会課題→解決する AI を考える過程のロジックをデータを基に構築する。 | | |
| 時間 授業内容 | 90 分 (五班の内三班は 30 分間 大学教員の指導を受ける) | 社会課題を解決する AI を考案する際に必要な知識を調べる。 現段階チームで取り組んでいる社会課題とそれを解決する企画の中間報告を 5 月 24 日に行う。その資料準備も行う。 | |
| 評価方法 | Classi を用いた振り返り | | |
| 宿題指示 | 5 月 24 日の発表資料づくり | | |

| | | | |
|------------|---|--|--------------|
| 授業日 | 5/24(火) | 1 学期授業回数 | 5 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 社会課題→解決する AI を考える過程のロジックをデータを基に構築する。 | | |
| 時間 授業内容 | 90 分 13:20-13:30 13:30-14:15 14:15-15:00 | <p>「社会課題を解決する AI を考案する」についての中間報告、各班の報告を学びの記録を用いて評価する。</p> <p>1 班 - ブラック企業</p> <p>第 2 視聴覚教室に移動</p> <p>2 年生の必修選択科目「AI 活動」のクラスと合同で、巳波先生より「AI 技術班の今後の活動」と「クエストカップ出場に向けての準備」についての講義を受ける。</p> <p>その後、質疑応答。</p> <p>「社会課題を解決する AI を考案する」についての中間報告の続き（残り 4 班の発表）</p> <p>2 班 - 買い物難民問題</p> | |

| | | |
|------|-----------------|--|
| | | 3班 - 戦争への意識を変える 4班 - AI活用 5班 - 多数の保護動物 学びの記録を提出 |
| 評価方法 | 学びの記録、報告動画、スライド | |
| 宿題指示 | 報告スライドの提出 | |

| | | | |
|------------|---|--|-----------|
| 授業日 | 5/31(火) | 1学期授業回数 | 6回目 / 全9回 |
| 学習目標 | フルカイトン株式会社 瀬川氏による講演を受けて、課題解決のためのAIに必要なデータとは?を考える。 | | |
| 時間 授業内容 | 90分 | 在庫分析クラウド誕生秘話や社会課題解決に至るまでのプロセスをお話しただいて衣服の大量廃棄問題へのロジカルに繋がったアプローチを聞いて、今後の班活動に繋げる。 | |
| 評価方法 | 学びの記録 | | |
| 宿題指示 | 学びの記録 | | |

| | | | |
|------------|------------------------------------|---|-----------|
| 授業日 | 6/7(火) | 1学期授業回数 | 7回目 / 全9回 |
| 学習目標 | 社会課題→解決するAIを考える過程のロジックをデータを基に構築する。 | | |
| 時間 授業内容 | 90分 13:20-13:40 13:40-15:00 | あるTV番組で取り上げられた仮説を例に用いて「仮説の立て方」について練習する。 ・文部科学省委託調査のための生徒アンケートに回答する。 ・各グループで社会課題・問題を解決するAIを作るためには、どのようなデータを収集する必要があるのかを話し合う。 ・6月21日(火)のクロカリで発表するグループを募る | |
| 評価方法 | Classiを用いた振り返り | | |
| 宿題指示 | 学期末の課題発表に向けての準備 | | |

| | | | |
|------------|---|---|-----------|
| 授業日 | 6/21(火) | 1学期授業回数 | 8回目 / 全9回 |
| 学習目標 | クロスカリキュラムに参加し、各授業での学びを共有する。来週の発表の準備を行う。 | | |
| 時間 授業内容 | 45分 45分 | クロスカリキュラムに参加し、AI活用における学びを他教科に共有する。それとともに他教科の学びを共有し、互いに刺激を受けて今後の学びの意欲につなげる。 また、次回のプレゼンの準備を残りの時間で行う。 | |
| 評価方法 | なし | | |
| 宿題指示 | プレゼン準備 | | |

| | | | |
|------------|--|---|--------------|
| 授業日 | 6/28(火) | 1 学期授業回数 | 9 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 社会課題→解決する AI を考える過程のロジックをデータを基に構築し、課題発表する。 | | |
| 時間 授業内容 | 90 分 | 「社会課題を解決する AI を考案する」についての学期末発表会(5 班) 審査員・講評者として高等部卒業生、X-mov Japan 社長の長安成暉氏をお招きする 各班の発表を学びの記録を用いて評価する 1 班 - 教育と ICT 2 班 - 多数の保護動物 3 班 - ブラック企業 4 班 - 買い物難民問題 5 班 - 戦争への意識を変える 各発表終了後に生徒同士で質疑応答、その後、長安氏からの講評 学びの記録を完成させて提出 | |
| 評価方法 | 学びの記録、ルーブリック | | |
| 宿題指示 | 学びの記録の完成、発表録画を観て振り返り | | |

| | | | |
|------------|--|--|--------------|
| 授業日 | 9/6(火) | 2 学期授業回数 | 1 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 自ら発見した社会課題を AI を手段として解決策を提案し、クエストカップ全国大会出場に向けて、授業内発表としてのプレゼンテーションの準備をする。 | | |
| 時間 授業内容 | 6 0 分 | 1) 夏休みの課題の共有と提出 * 技術班の完成品の披露—「チノ」が動いている様子を動画撮影したものを発表 * 作成したポスターを各班で共有して意見交換 * クエストエデュケーションの教材の配布 2) 昨年度のクエストカップの「ソーシャルチェンジ」、「スモールスタート」部門の優勝グループの動画を観賞し、意見交換する | |
| | 3 0 分 | 各班に分かれ、ストーリー作り、画面遷移イメージなど発表に向けての準備を開始する。 | |
| 評価方法 | なし | | |
| 宿題指示 | 巳波先生のコメントを参考に、ポスターとスライド作成に向けて各班で話し合いをする | | |

| | | | |
|------------|--|--|--------------|
| 授業日 | 9/20(火) | 2 学期授業回数 | 2 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 自ら発見した社会課題を AI を手段として解決策を提案し、クエストカップ全国大会出場に向けて、授業内発表としてのプレゼンテーションの準備をする。 | | |
| 時間 授業内容 | 1 0 分 | 1) 前回の授業の振り返り | |
| | 8 0 分 | 2) 先週に引き続き、クエストカップ全国大会出場を視野に入れて、各班に分かれ、ストーリー作り、画面遷移イメージなど授業内での発表に向けての準備を開始する。 マナボードを活用して、各班で意見交換しながらポスターやスライド作成のイメージを固める。 | |
| 評価方法 | なし | | |
| 宿題指示 | 巳波先生のコメントやマナボードに集約したアイデアを参考に、各班でポスターとスライド作成を進める | | |

| | | | |
|------|---|--|--------------|
| 授業日 | 9/27 (火) | 2 学期授業回数 | 3 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 自ら発見した社会課題を AI を手段として解決策を提案し、クエストカップ全国大会出場に向けて、授業内中間発表のプレゼンテーションの準備をする。 | | |
| 時間 | 5 分 | 1) 前回の授業の振り返り | |
| 授業内容 | 8 5 分 | 2) 先週に引き続き、クエストカップ全国大会出場を視野に入れて、各班で次週に予定されている授業内での中間発表に向けての準備を進める。前回の授業でマナボード上でまとめた内容をもとに、各班で協力してポスター作成と PP スライドの完成を目指す。 | |
| 評価方法 | なし | | |
| 宿題指示 | 巳波先生のコメントやマナボードに集約したアイデアを参考に、各班でポスターとスライドを完成させ、各班でプレゼンテーションの練習をする。 | | |

| | | | |
|------|--|---|--------------|
| 授業日 | 10/4 (火) | 2 学期授業回数 | 4 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 自ら発見した社会課題を AI を手段として解決策を提案し、クエストカップ全国大会出場に向けての準備として、授業内の中間発表会に臨む。 | | |
| 時間 | 5 分 | 1) 中間発表会の待機場所として視聴覚教室に集合。 | |
| 授業内容 | 8 5 分 | 2) ポスター発表（評価担当：荒川氏—教育と探求社 クエストカップ主催者側）とスライド発表（評価担当：田澤副部長）のために、それぞれ教室（数学小教室、310 教室）が設けられる。班ごとに決められたローテーションで、ポスター発表教室とスライド発表教室に行き、発表時間 5 分 + 質疑応答・アドバイス 10 分でプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して評価担当者より講評をいただく。 | |
| 評価方法 | ルーブリック | | |
| 宿題指示 | 各班で録画された中間発表の動画を視聴し、振り返りをして最終発表会に備える。 | | |

| | | | |
|------|--|--|--------------|
| 授業日 | 10/18 (火) | 2 学期授業回数 | 5 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 前回の授業内で実施した中間発表会の振り返り | | |
| 時間 | 10 分 | 1) 録画した動画や巳波先生や五十嵐氏からのフィードバックをもとに、各班に分かれて、マナボードを用いて前回の授業で行った中間発表会の振り返りをする。 | |
| 授業内容 | 5 0 分 | 2) 巳波先生にお越しいただき、各班に直接講評をしていただく。 | |
| | 3 0 分 | 3) 巳波先生や他の評価者からのフィードバックを参考にし、次週の講演会の講師である李氏の前で行うプレゼンテーションに向けての準備に取り組む。 | |
| 評価方法 | なし | | |
| 宿題指示 | 録画された中間発表の動画や評価者の講評をもとに、各班で振り返りを行い、次週李氏の前で行うプレゼンテーションの準備をする。 | | |

| | | | |
|------|---|---|--------------|
| 授業日 | 10/25 (火) | 2 学期授業回数 | 6 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | Learning for All の代で、クエストカップの審査員である李 炯植氏の前で、中間発表と同じプレゼンテーションを行い、指導を受ける。李氏の講演を聴き、社会課題を解決することの意味を考える。 | | |
| 時間 | 5 分 | 第 2 視聴覚教室で、2 年生の AI 活用のクラスと合同授業。学びの記録が配布される。 | |
| 授業内容 | 5 0 分 | 1) Learning for All の代表で、クエストカップの審査員である李 炯植氏と、授業の担当教員の簡単な紹介。 | |
| | 3 0 分 | 2) 李氏の前で、各班が中間発表会と同じポスタープレゼンテーション、または PP プレゼンテーションを行い、発表毎に李氏の講評を得る。 | |
| | 1 0 分 | 3) 李氏の講演：「社会課題を解決するために」 | |
| | 5 分 | 4) 質疑応答 | |
| | | 5) 授業のまとめ | |
| 評価方法 | 学びの記録 | | |
| 宿題指示 | 李氏の前で行ったプレゼンテーションと講評の動画を観て、各班で振り返りを行う。 | | |

| | | | |
|------|---|---|--------------|
| 授業日 | 11/8 (火) | 2 学期授業回数 | 7 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | Learning for All の代表で、クエストカップの審査員でもある李 炯植氏の前で行ったプレゼンテーションの振り返りを行い、最終発表会に向けての準備を進める。 | | |
| 時間 | 2 0 分 | 1) 各班に分かれ、Learning for All の代表でクエストカップの審査員でもある李 炯植氏の講演「社会課題を解決するために」の動画を観て、そこから得られるメッセージを考え、自分達の発表に何が必要かを考える。 | |
| 授業内容 | 7 0 分 | 2) 李氏から受けた講評と、2 年生が 3 年生の発表を見て書いた「学びの記録」を振り返りの材料とし、改善点を話し合い、最終発表会に向けての準備を進める。 | |
| 評価方法 | なし | | |
| 宿題指示 | 最終発表会に向けての準備 | | |

| | | | |
|------|---|--|--------------|
| 授業日 | 11/22 (火) | 2 学期授業回数 | 8 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | クエストカップ 2023 の正式な募集要項の内容を確認し、次週の最終発表会に向けての準備を完璧にする。 | | |
| 時間 | 1 5 分 | 1) クエストカップ 2023 の正式な募集要項が発表されたため、全体でデータを共有して内容を確認する。 | |
| 授業内容 | 7 5 分 | 2) 各班に分かれて発表を各自 iPad で録画し、それを観ながら最終発表会までに改善すべき点を話し合い、原稿、ポスター、スライドなどの修正を行う。 | |
| 評価方法 | なし | | |
| 宿題指示 | 次週の最終発表会に向けての準備 | | |

| | | | |
|------------|-----------------------------------|--|--------------|
| 授業日 | 11/29 (火) | 2 学期授業回数 | 9 回目 / 全 9 回 |
| 学習目標 | 成果報告会としての最終発表会で、2 学期間の学びの成果を共有する。 | | |
| 時間 授業内容 | 90分 | <p>最終発表会</p> <p>1) 発表会の評価担当者として、副部長 田澤先生、教務主任 三木先生、3 年 H 組 担任 (次年度 2 年生の AI 活用授業担当者) である福嶋先生をお招き、各班の発表を評価していただく。</p> <p>2) 発表順番</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. うごトリ 2. 街どおーん 3. みんなでおつかい 4. ヘルスマイル 5. Mobile Pets <p>各班の発表ごとに評価担当者と生徒達と質疑応答</p> <p>3) Classi の年間振り返りアンケートの回答指示</p> | |
| 評価方法 | ループリック | | |
| 宿題指示 | Classi で配信される年間振り返りアンケートに回答する | | |